

DiNQLシステムを 大幅リニューアルします！

第2回 入力負担の軽減を目指して～入力画面の整理～

労働と看護の質向上のためのデータベース（DiNQL）のITシステムの大幅なりニューアルについて、今月は「入力負担の軽減」を目指したりリニューアルのポイントをご紹介します。

カテゴリの目的別表示

現在のシステムでは、入力項目が「12のカテゴリ」に分かれ、そのカテゴリごとに入力するシステムとなっています。しかし、カテゴリを見るだけでは、把握できる内容が分かりにくい状況となっています。

そのため、カテゴリを目的別に表示し、図1のように示すことで、取り扱う内容が明確になり、目的に沿った入力項目の選択ができるようになります。項目を見て、自病棟・自病院で必要と思う項目から選んで入力を行い、質改善の取り組みを始めることが可能になります。

入力画面の整理

DiNQLでは月1度または定期的に入力する項目、年1度入力する項目がありますが、現在のITシステムでは入力画面にカテゴリごとに毎回全項目が表示され、負担として感じやすい状況です。

そこで、図2のように入力画面の改善を行います。

病床数や診療報酬算定状況など、年1度入力するものと、病棟の状況を把握するために月1度または定期的に入力する項目を入力画面上で分けて表示し、年1度入力する項目は、入力後「入力済」と表示されるか、または入力画面に表示されなくなるようにします（必要時、後で入力値は修正可能です）。以降は、月1度または定期的に入力する項目だけが画面に表示されるため、入力画面の表示量が減り、入力すべき項目に集中できます。

さらに、月1度または定期的に入力する項目の中でも、看護の質改善活動のために最低限必要な「構造」「過程」「結果」の項目のみを抜粋して入

図1 カテゴリの目的別の表示のイメージ

改善案
病棟の現状を見る
転倒・転落の現状を見る
感染の現状を見る
誤薬の現状を見る
身体的拘束の現状を見る
労働の現状を見る
遠隔支援の現状を見る
診療報酬の現状を見る
外来の現状を見る
精神病床の現状を見る
産科病棟の現状を見る
小児病棟の現状を見る

図2 入力画面の整理のイメージ

1. 年1度入力する項目
①病院基礎情報入力 例：許可病床数、診療報酬算定状況等
②自分が選択したメニューの年1回入力
2. 月1度または定期的に入力する項目
①病棟に共通する項目 例：病床稼働率、平均在院日数、在院患者延べ数等
②選択したカテゴリ(例：「病棟の現状を見る」)に関連した項目
③フリー項目(新設) 現行項目にはないものを記録したり、独自分析にトライしたい人が活用する。 例：おむつ使用量、病棟特有の機器の使用状況等

力することもできるようにします。これらは、前回ご紹介した「配信レポート（仮称）」の1ページ目に反映される項目であり、入力負担を減らしたい場合や、参加初年度の場合などでの活用を想定しています。

例えば「誤薬の現状を見る」を選んだ場合、年1度入力する項目（構造8項目、過程2項目）と月1度または定期的に入力する項目（構造12項目、過程1項目、結果2項目）が、入力画面上で明確に分かれて表示されます。全項目の入力が難しい場合は、「配信レポート（仮称）」の1ページ目に反映される項目（「月1度または定期的に入力する項目」のうち、構造3項目、過程1項目、結果2項目）のみを入力することで、主なアウトカムを見ることが出来ます。また、全ての表示された「構造」「過程」「結果」の項目の入力を行うことで、自病院・自病棟の強み・弱みなどを把握することができ、改善活動の検討に役立てることが出来ます。

さらに、今回新たに「フリー項目（仮称）」を設け、現行項目にはない指標を設定したり、独自分析にトライしたい場合に活用できる機能を準備しました。

前回ご紹介した「配信レポート（仮称）」に加え、入力に係る改善を行うことで、質改善に向けてより使いやすくなると考えています。